

中川地区防災計画

～自分たちの地域は自分たちで守る～



平成30年西日本豪雨による救出活動（六反）

令和6年3月

中川地区自治協議会 中川地区自主防災会

中川地区防災計画 目次

1. 地区防災計画作成にあたって	1
2. 地区の特性	3
3. 中川地区で予想される災害と避難所	11
4. 防災体制	13
5. 組織図	14
6. 防災体制タイムライン	16
7. 防災訓練の実施と検証	17
8. みんなで決める 住民主体の防災	20

ワークショップ



中川小学校 体育館



(株)平野鐵工所 厚生棟

豪雨

になったら・・・

警戒レベル	対応	行動	地震
5	緊急安全確保 (町の発令)	<ul style="list-style-type: none"> 命の危険, 直ちに安全確保 発令を待ってはいけません。即, 避難 	震度5強以上

～警戒レベル4までに必ず避難～

4	避難指示 (町の発令)	<ul style="list-style-type: none"> 災害発生の危険が迫っています 危険な場所から全員避難 	震度4以上
3	高齢者等避難 (町の発令)	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者等, 障害のある人は避難。以外の方は避難もしくは避難準備 	
2	大雨洪水注意報 (気象庁発令)	<ul style="list-style-type: none"> 警戒へ 避難に備え, 自分の避難行動を確認 	
1	早期注意報 (気象庁発令)		

揺れを感じたら 地震

発生～2分	命を守る	<ul style="list-style-type: none"> テーブルや机の下にもぐり, 身の安全を守る 就寝中は寝具にもぐる 固定していない家具から離れる 避難経路確保のため近くの扉をあけておく
2～5分 揺れが収まったら	地震による 二次災害を防ぐ	<ul style="list-style-type: none"> 火元の確認 電気・・・ブレーカーを切る ガス・・・元栓を閉める 家の近くに山や崖がある場合, 斜面と反対側へ移る 靴やスリッパで避難しましょう
5分～	命を守る行動を	<ul style="list-style-type: none"> 土砂災害の恐れがあります ブロック塀などから離れて歩きましょう 家具などの下敷きになり身動きが取れない場合は大声をだすか笛を吹きましょう <p>火災が発生した場合は初期消火のみ 119番通報と避難を</p>

1. 地区防災計画作成にあたって

～災害を自分事として考えよう～

我が国は多くの自然災害に見舞われてきました。つい最近では令和6年新年早々に能登半島地震で甚大な被害が発生しました。わが地区では、平成30年西日本豪雨の発生により多くの被害に遭いました。また、今後30年以内には南海トラフ地震の発生確率が70%から80%に引き上げられ、井笠地区においては震度6弱、瀬戸内海沿岸では津波が4メートル前後と予測されています。

このような状況を踏まえ、自主防災会が結成されたり防災に対する取り組みが必要となってきました。

「自分の命は自分で守る」、「自分たちの地域は自分たちで守る」という“身の安全を守る”という「自助」が重要となってきます。そのうえで、地域コミュニティでの相互の助け合いが重要となってきます。そして「ひとりも取り残さない」ために。これが「共助」です。あえて言わせてもらえば「近助」です。

この「自助」「共助」とともに必要となるのが「公助」です。

地域住民の声掛けでの避難や、被災者の救出により難を逃れ命が救われたという事例が多くあります。避難とは、避けることが難しいことではなく“難”を避けることです。そのためにはすぐに行動を起こしましょう！空振りであっても構いません。

災害は予告なしにやってきます！そのためにも、日頃から強いまちづくりを目指していく地区防災計画が必要となってきます。

中川地区では、災害時における「自助」「共助」を着実に推進するために、知識と意識を向上させ地区防災計画に基づく施策に取り組みます。

計画作成実務にあたっては、「平常時」「災害時」「災害後」に分類。

今回は「平常時・災害時」をメインに概要を作成。

平常時 災害に強い地域づくり～備え～

地区の安全点検（消防ホース保管管理など，危険個所の点検）

防災に関する知識の向上（講演会，講習会など）

防災訓練・避難訓練および防災倉庫の点検

要配慮者の把握および訪問

災害時 身を守り，被害の拡大を防ぐ

情報の収集・共有化と伝達

初期消火活動

救出・救援活動

避難誘導

災害後 災害弱者をなくす

避難所運営

炊出し・給水活動

被害にあった家屋などの片付け（ボランティア）

3分類の各項目は，記載した以外にも多くあります。これは一つの目安です。

地区防災計画作成にあたっては，地域や状況にあわせて，また，自治会（町内会）

などの役員の交代があっても，取り組みが継続できる，そして随時更新できるこ

とを基本にしています。

2. 地区の特性

地区の特性

中川地区は3つの字（本堀，浅海，江良）で構成され，矢掛町7行政区の内の1行政区である。また，旧山陽道が東西に走り，そして並行するように小田川も東西に流れており中川地区を南北に分断している。

中川地区は，ほぼ四方を山で囲まれ多くの人家は山裾にあり，川南の江良地区では江良谷川による，浅海の一部は一ノ瀬川による扇状地の上に成り立っている。川北は，東西に旧山陽道が走り交通の要衝として栄え，南北の平坦地は小田川の水の恵みにより農地として利用されているが，小田川は天井川であるため昔より内水などによる水害に悩まされている。また，灌漑用として各地区に多くのため池が存在していることも忘れてはならない。

そして，中川地区も少子高齢化（高齢化率 42%）が進み町平均を上まわっている。核家族等により世帯数は増加するも，人口の減少や空き家の増加も加速している。

純農村地帯だが農業も担い手不足となり，営農組合結成で活路を見出そうとしている。多くの若者は進出してきた工場や大型商店に勤務し，高齢化と人口の減少による担い手もいなくなり営農への道も厳しくなっている。

昭和の築堤までは，毎年豪雨による水害に悩まされていた。阿部山系の土砂災害による砂防工事等の記録が残っている。また，大正時代には丁老池堤防の決壊や，つい最近では平成 30 年西日本豪雨により浸水や土砂崩れで大きな被害を受けた。

地区防災計画対象地区

	町内会名	世帯数 (町)	人口		合計	町内会 加入世帯数	高齢者数	
			男	女				
本堀	本堀片山	24	38	40	78	23		小田川・北側
	石井	16	26	28	54	16		
	上	15	32	38	70	15		
	中	26	76	45	121	25		
	六反	46	72	78	150	46		
	大井	31	41	42	83	31		
	熊(小田)		3	4	7			
	本堀計	158	288	275	563	156	228	
浅海	毎戸	22	35	38	73	22		小田川・南側
	宮ノ谷	17	22	30	52	16		
	田鶴	19	23	24	47	19		
	山手北	15	23	17	40	15		
	山手南	14	24	30	54	14		
	高柳	24	30	35	65	23		
	日妻西	20	33	42	75	18		
	日妻東	29	40	47	87	27		
	大仁伍	14	21	22	43	13		
	浅海計	174	251	285	536	167	232	
江良	八池	23	26	39	65	23		北
	山之神西	16	23	21	44	16		
	山之神東	11	18	20	38	11		
	郷下	19	28	24	52	19		
	郷上	16	26	32	58	16		
	奥山	15	31	30	61	14		
	寺谷	15	26	27	53	15		
	岡田	12	13	16	29	12		
	江良片山	22	29	34	63	20		
	向山西(川面)			2	2			
	江良計	149	220	245	465	146	195	
合計	481	759	805	1564	469	655		

・世帯数および高齢者数は令和5年12月31日現在、人口は令和6年1月29日現在。

・住所移動しない施設入所者、外国人労働者で転入届を提出された方も含む

・中川地区の人口としては、他地区町内会加入でも中川在住として計算されています。

反対に、住所は他地区であるが町内会は中川への加入世帯の人口は計算されていませんが、町内会加入世帯数には計算されています。(町の世帯数には入っていません)

例：本堀片山町内会加入の西川面在住の2軒(男3、女3)？は人口は入っていません。

・消防団 小田川北側・・・第一部、 南側・・・第二部

地区（町内会）の特性

地区		内 容
本堀片山	特性	世帯数・人口の減少。50・60代が極めて少ない。片山公民館が中心部にあり集合しやすい。家と家が近いので連絡しやすい。緊急時の行動力が乏しい。
	強み	町内会連絡網が作られている。近所同士のつながりが深く、協調性がある。
	弱み	避難場所が遠い。防災意識が薄く、身近に感じていない。昔からの家屋が多く耐震性がなく脆弱。
	危険な場所	地区の背後が山。池もあり洪水がある。土砂災害、がけ崩れが怖い。
石井	特性	世帯数が少ない。道づくり等の地域のコミュニティ行事を重んじているが、高齢者が多い。子ども（幼児・児童）が居ない。
	強み	住民同士をよく知っている。作業や行事等の協力体制が良い。
	弱み	高齢者が多くコミュニティ行事に支障が出ている。農作業が出来る人が少ない。猪の被害。
	危険な場所	本堀池の下に位置する。山裾に多くの家が建ち、土砂災害やがけ崩れが怖い。
上	特性	高齢化が深刻で、地域の行事や作業が実施できなくなっている。
	強み	出来る人で協力して地域の行事や作業を行なっている。
	弱み	道が狭く、緊急車両が入りにくい。顔を合わせる事が少なくなり、つながりが希薄になってきている。空き家も増えてきている。若者といえる50・60代がほとんどいない。
	危険な場所	山池の土砂災害。がけ崩れ。
中	特性	高齢者世帯。まとまりが強い。祭りや地域の行事には協力的に活動している。
	強み	昔ながらの世帯で住民同士顔なじみで結束力があり、連絡が伝わりやすい。
	弱み	若い世代が独立し地区を離れ高齢者世帯が増加。山際で緊急車両が入りにくい。
	危険な場所	山際による土砂災害。
六反	特性	中川地区で世帯数が一番多い。高齢者の数も多い。世帯数が多いので決めごとがまとまりにくい。
	強み	道づくり等の作業が早く済み、個人の労力が少なく済む。意見がたくさんで楽しい。
	弱み	若者が少ないので活気がなく、すべてのことに消極的である。
	危険な場所	水害被害。六反公民館周辺の土砂災害
大井	特性	高齢者が多い。地域の作業、行事などを重んじている。
	強み	町内会にサロンがあるので情報交換ができる
	弱み	高齢者が多い。
	危険な場所	山裾に家があり土砂災害、がけ崩れがこわい。下の方の民家は水害もある。

地区		内 容
毎戸	特性	旧山陽道（古代山陽道）に面し、古墳も多く、毎戸遺跡が発掘され栄えた地区。
	強み	増水による災害は受けにくい
	弱み	逆に周囲が低いので、水害の際は孤立する。
	危険な場所	裏山は大きな岩が散在し、落石の方向によっては大きな被害が予想される。
宮ノ谷	特性	高齢者が多く、田畑の管理を営農組合が補っている。伝統行事が出来るか先行きが不安。
	強み	住民同士をよく知っている。定期的な会合で連絡が取れている。地域の子どもを大切にしている。
	弱み	子どもが少なく活気が弱まっている。防火水槽、消火栓が無い。空き家が増えている。
	危険な場所	土砂災害。倒木。
田鶴	特性	月1回の集会有り情報収集しやすく、地域の行事等まとまりがある。
	強み	現状では、町内会行事がうまく運営されている。緊急連絡網があり、近所付き合いがよい。
	弱み	高齢化が進み若い世代が少ない。高校生以下の子どもがいない。将来、行事の運営が難しい。複数の役を一人が請け負い負担が増える。
	危険な場所	背後は田鶴山、前は小田川で山崩れや浸水が怖い。水門管理が必定。
山手北	特性	75歳以上が3割で高齢世帯が多い。比較的に水害には強い地域。行事も多い。
	強み	隣近所と顔が見える関係にある。
	弱み	若者が少なく地域行事を担う人の負担が増す。こどもがいない
	危険な場所	南側の山（落石、土砂崩れ） 北側の川（堤防の決壊） 町道を走る車のスピード
山手南	特性	比較的平坦な土地に家屋と畑が散在。道路事情が良い。世帯数が少なく地域の行事が多い。
	強み	住民同士を顔なじみで連絡が取れやすい。大きな災害を被る可能性が低い。
	弱み	高齢者が多く、若者は地区外に通勤や外に出ている家が多い。
	危険な場所	山が近いので土砂災害があるのでは。古民家が多く地震が怖い。
高柳	特性	世帯数が少なくまとまりがある。
	強み	近所付き合いもよく連絡が取りやすい。
	弱み	高齢化で避難が大変。若者が少なく地区外への通勤がほとんど。
	危険な場所	山裾なので土砂災害の危険性が大きい。

地区		内 容
日妻西	特性	世帯数が少ない。
	強み	昔ながらの付き合いが深く、住民同士をよく知っている。町内行事の参加率が良い。過去に大きな災害がない。
	弱み	高齢化。若者が少ない。畑地の維持管理に困る。
	危険な場所	阿部山の土砂災害、ため池
日妻東	特性	高齢化が進んでいる、日中は通勤通学で若者が少ない。
	強み	月1回の会合でお互いの意思が伝わりやすい。皆で協力し、何でも行う。
	弱み	若者が日中いない。道路が通勤通学に利用されスピードをだす車で危険。
	危険な場所	ため池の決壊。阿部山による土砂崩れ、がけ崩れ。
大仁伍	特性	世帯数が少ないので、伝統行事を行うのがしんどい。
	強み	連絡が取りやすい。
	弱み	高齢者が多い
	危険な場所	小田川の傍なので水害がこわい。
八池	特性	高齢化率43.5%。地域の伝統行事が引き継がれている。
	強み	住民同士よく知っている。地域活動に協力的。
	弱み	高齢化が進み若者が少なく、地域行事を担う人が少なくなっている。
	危険な場所	山裾の家が多い。土砂災害 がけ崩れ。ため池。
山之神西	特性	兼業農家が多い。日中は老人だけの世帯が多い。高齢の方が皆元気。
	強み	住民同士が顔見知り。各戸互助精神がある。近くに避難場所（広場）がある。
	弱み	高齢化が進み、草刈り等の行事の負担増。老人だけの世帯や独居世帯との連絡が取りづらい。。
	危険な場所	山之神池による災害、山裾での土砂災害など。
山之神東	特性	世帯数が少なく高齢化が進むが、祭りなどの地域の行事や伝統を重んじている。
	強み	近所付き合いもよく、住民同士よく知っており連絡が伝わりやすい。
	弱み	高齢化が進み一人暮らしが増えている。道が狭く緊急車両が入りにくい。
	危険な場所	山裾に多くの家があり土砂災害・がけ崩れが怖い。ため池（山之神池）。

地区		内 容
郷下	特性	江良地区の中心に位置し、町内会の中を江良谷川が南北に流れている。
	強み	H14年に地元の方から土地の提供を受け集会所を建設（今は、一時避難所になっている）。住民同士よく知っている。月1回の集まりでの連絡徹底。
	弱み	高齢化。川の管理が大変。重労働ができない。
	危険な場所	水害
郷上	特性	高齢化が進んでいる。昔ながらの人ばかりで協力的で、お互いにの声掛けや会話ができている。
	強み	向う3軒両隣で住民同士よくコミュニケーションが図られている
	弱み	高齢化で若者が日中いない。若い人、子どもがいない。空き家が増えることが予想される。
	危険な場所	ため池（3箇所）の決壊。山際の土砂崩れ、がけ崩れ。
奥山	特性	山間の自然豊かな土地。地域の行事や岡大留学生との交流。少子化が進んでいる。
	強み	住民同士よく知っており、何事も積極的に協力的である。
	弱み	若者の定住。
	危険な場所	丁老池
寺谷	特性	集落が一か所にまとまっている。団結力があり協力的。
	強み	住民同士よく知っている。地域行事の参加率が良い。お寺からの夜景がきれい。
	弱み	坂道なので高齢者にはしんどい。大量の雨でがけ崩れが心配。水道ポンプの汲み上げ世帯がある。
	危険な場所	周囲が山で、土砂災害・がけ崩れ。池もある。
岡田	特性	世帯数が少なく、高校生以下の子どもがいない。祭り等の伝統行事を続けている。
	強み	住民同士が顔見知りで、お互いに協力しあっている。
	弱み	高齢者が55%占める。通勤で若者が日中いない。道路が狭い。
	危険な場所	山の麓にあり土砂災害の恐れ。車両の通行が多く危険。
江良片山	特性	世帯数が少なくまとまりがある。祭り等の伝統行事が多くある。
	強み	住民同士が顔見知り。伝統行事など協力的である
	弱み	若い人が少ない。
	危険な場所	山の麓にあり土砂災害の恐れ。車両の通行が多く危険。

地区（自治会）の特性

本堀	特性	稲作・野菜作りが盛んである。交通の便がよく商業施設が近くにある。まとまっている
	強み	消防団がよくがんばっている。結束力がある。平地のため避難し易い。地域の行事、伝統行事に協力的。
	弱み	高齢化。空き家の増加。子どもがすくない。狭い道路。避難所が遠い。農業等の後継者がいない。
	危険な場所	小田川の決壊、山際の災害、ため池や用水路。交通量の増加。狭い道路。
浅海	特性	稲作・野菜作りが盛んである。まとまっている
	強み	消防団がよくがんばっている。結束力がある。平地のため避難し易い。地域の行事、伝統行事に協力的。
	弱み	高齢化。空き家の増加。子どもがすくない。狭い道路。避難所が遠い。南北に分かれている。農業等の後継者がいない。矢神沖、山手沖が大雨の時に冠水しやすい。
	危険な場所	小田川の決壊、山際の災害、ため池や用水路。交通量の増加。
江良	特性	山に囲まれている。傾斜地と平坦地となっている。稲作・野菜作りが盛んである。まとまっている。若宮みこし会、十五日会、元気会が頑張っている。
	強み	消防団がよくがんばっている。結束力がある。地域の行事、伝統行事に協力的。
	弱み	高齢化。空き家の増加。子どもがすくない。狭い道路。避難所が遠い。農業等の後継者がいない。鳥獣被害。近隣に商店・医療機関がない。消防団員の高齢化。
	危険な場所	小田川の決壊、山際の災害、ため池や用水路。交通量の増加。地域全体が斜面になっている。

公共施設の特性

地区	内 容	
中川小学校	特性	地域と協働した体験学習が充実。地域と連携した安全安心な学校づくり。
	強み	職員の安全教育、防災教育に対する意識が高い。保育園、公民館が近い。
	弱み	学校が小田川沿いにある。川南の児童が小田川の橋をわたり風水害時には危険。水害時は避難所ではない。
	危険な場所	小田川、中央橋、国道486号、用水路、ため池。
中川公民館	特性	国道486号沿いで交通便利。商業施設が徒歩圏内。小学校・保育園が近くで連絡を取りやすい。
	強み	耐震化されている。平屋でコンパクトなので人数（避難時）の確認しやすい。
	弱み	小田川沿いにある。職員が少ないので多くの人に対して臨機応変な対応が難しい。
	危険な場所	水害時の公民館。

中川小学校から見た中川地区の特性

中川小学校	特性	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民が顔見知りであり、地域の連携が取れている。 ・歴史や文化が古く大切にされている。
	強み	<ul style="list-style-type: none"> ・大型商業施設や直売所など内外からの人が集まる地域である。
	弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・地区が小田川や国道で分断されており、地区の南北で対策が異なる。 ・通信インフラが断たれると情報の共有化が困難になる。 ・少子高齢化などにより、地域の祭りや公民館行事が少しずつ衰退しつつある。
	危険な場所	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路（地域力で補っている） ・細い道が多い。小田川、池、山裾の災害

地区の特性の一つとして中川地区は古い木造住宅が多いです！

あなたがお住まいのご自宅は？

①家の建築年数は？

家屋によって年数が違うので注意のこと

②家が建っている周りは、どんな地形？

地震だけではなく、水害等も考えて



③家の中の安全な場所は？

物が倒れない、落ちてこない、

飛んでこない

④火災に注意しましょう

⑤今まで起きた災害体験は？

自宅の耐震チェック

○ 1981年（昭和56年）以前の「旧耐震基準」の住宅は要注意

○ 家全体の耐震化が難しければ、寝室や

リビングなどのピンポイント補強を

○ 可能なら寝室は2階に、家具は置かない

○ 耐震シェルターの導入や平屋への

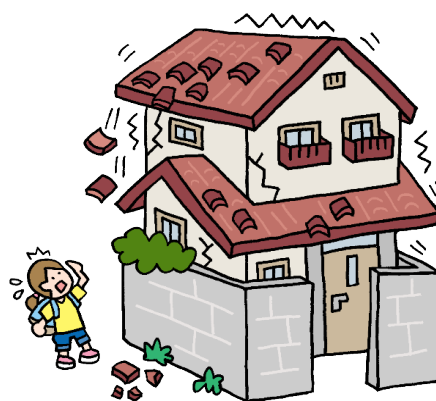
減築なども選択肢に

○ 住み替えの際は地盤チェックを

一般的には住宅全体で耐震補強するのが

ピンポイントで補強する場合に、助成金を

利用できない場合が多いのでよく確認して行うことが大切



令和6年2月7日付山陽新聞より転用掲載

3. 中川地区で予想される災害と避難所

予想される主な災害

【雨】

- ・ 川，池の氾濫，堤防の決壊
- ・ 冠水（内水）による水害
- ・ 山崩れ（土石流） かけ崩れ
- ・ 停電 断水

【地震】

- ・ 家屋の倒壊，損壊
- ・ 山崩れ（土砂災害）
- ・ 停電，断水など
- ・ 道路の損壊
- ・ 火災
- ・ 液状化現象

【風】

- ・ 家屋の倒壊，損壊
- ・ 物が飛ばされる被害
- ・ 倒木，倒木による停電や交通障害
- ・ 火災



中川南避難所

避難所について

指定緊急避難所

- ・ 中川小学校（水害時は除く）・・・・・・・・小田川北

指定避難所

- ・ 中川小学校（水害時は除く）・・・・・・・・小田川北
- ・ 中川保育園（水害時は除く）・・・・・・・・小田川北
- ・ 中川町民会館（水害時は除く）・・・・・・・・小田川北
- ・ B&G海洋センター・・・・・・・・小田川北
- ・ 中川南避難所・・・・・・・・小田川南

一時避難所

- ・ （株）平野鐵工所・・・・・・・・小田川北
- ・ 大井公民館（大井町内会）・・・・・・・・小田川北
- ・ 日妻公民館（日妻西，日妻東町内会）・・・小田川南
- ・ 郷下集会所（郷下町内会）・・・・・・・・小田川南

防災倉庫

- ・ 中川小学校（水害時には機能せず）・・・・小田川北
- ・ 中川南避難所・・・・・・・・小田川南





4. 防災体制

命を守る行動		命をつなぐ行動	
①防災体制	②災害警戒時	③応急対策時	④復旧・復興時
<ul style="list-style-type: none"> ・防災、避難についてのワークショップ ・防災訓練、避難訓練の実施 ・防災計画、避難マップの作製 ・避難路の確認 ・指定避難所、一時避難所、防災倉庫の確認 ・災害時の連絡網などの体制確認 ・要配慮者等の確認連絡 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集と共有と連絡 ・見回り状況把握と住民所在確認 ・気象情報の収集と確認 ・避難判断、避難行動等 	<ul style="list-style-type: none"> ・身の安全を確保 ・避難、避難誘導、避難支援 ・住民間の助け合い、声掛け ・救出および救助 (自分の身の安全確認をして) ・情報収集と共有と連絡 ・出火防止、初期消火 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所運営と支援 ・在宅避難者への支援 ・地域全体の被災状況把握および被災者に対する地域コミュニティ支援 ・行政との情報収集と共有と連絡 ・物資の仕分けや吹き出し
消防団&水防団、自治会（町内会）や民生委員をはじめとする各団体、ボランティア等との連携			

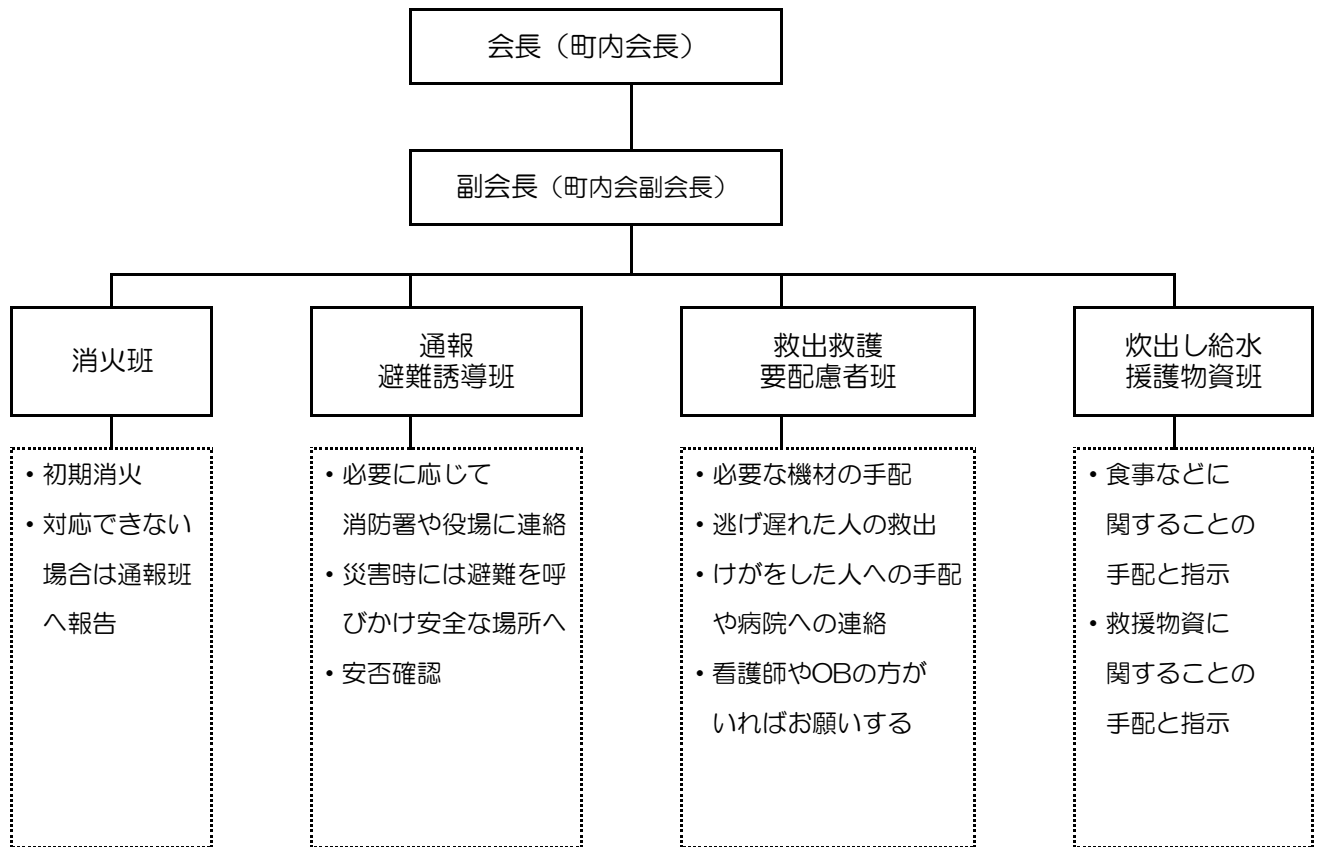
地域コミュニティ

地域コミュニティとは、地域住民が生活している場所、消費、生産、労働、遊び、スポーツ、祭りなど地域住民の相互交流が行われている地域社会を指すことが多く、自治会、町内会などをイメージするとわかりやすいと思います。地域コミュニティの特徴としては、①地域住民間の情報共有（ネットワーク）、②信頼関係、③お互い様の意識（規範、互報性）等があげられます。



5. 組織図について

基本的な組織図と役割



- ・班別や役割は、町内会の事情や規模に応じて決めてください。
- ・班別は、活動内容や人数によって、増減するなどして決めてください。
- ・班別をする場合、昼間は町内外に勤務している方や、高齢者で通所サービスを受けている方など、さまざまなことがありますので、これらを考慮して昼と夜を別にするなど考えて決めてください。

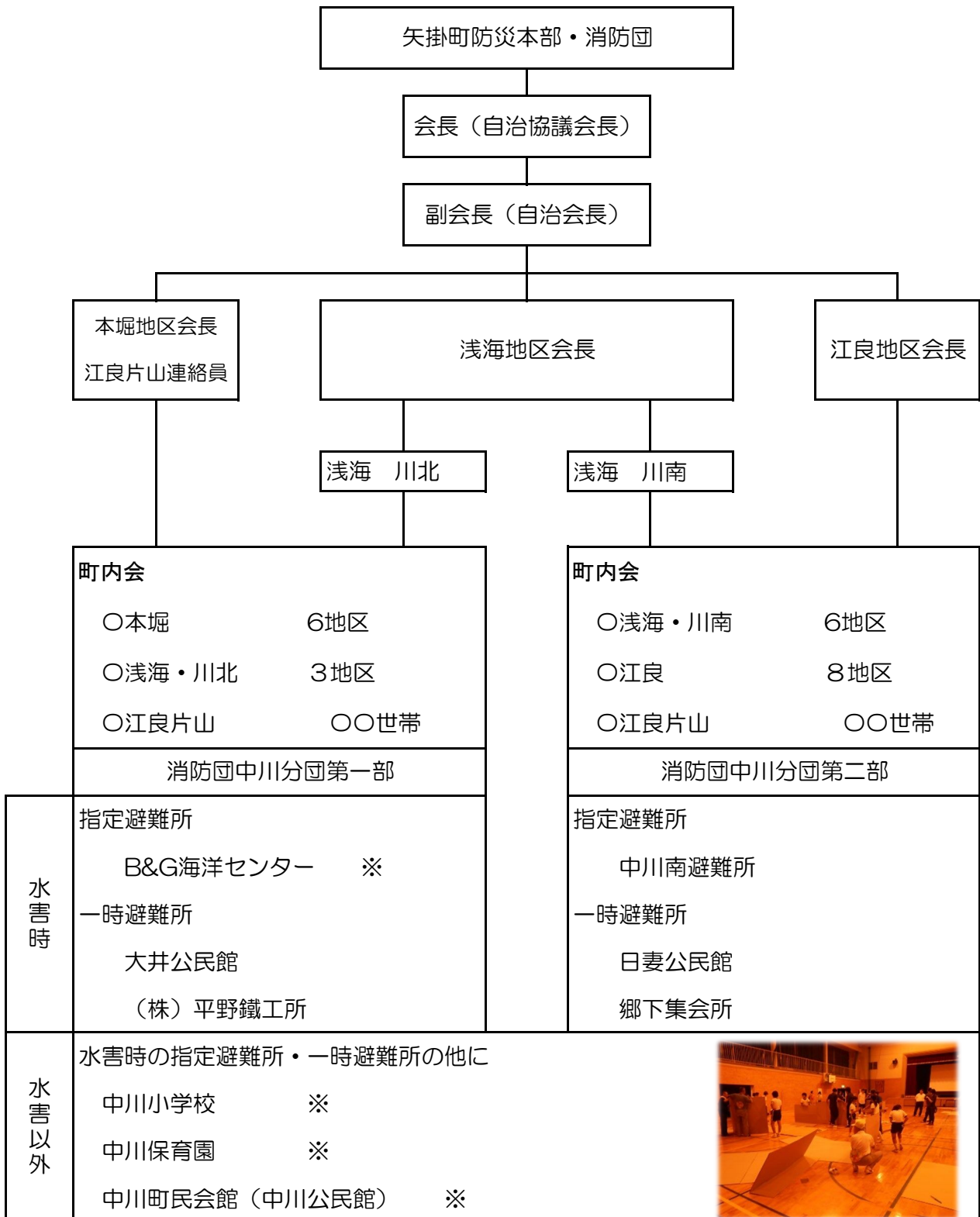
◆平常時の防災班を設置 (各班からお願いします)

- ・防災講習会, 防災訓練の実施, 資料作成の配布
- ・防災・防火設備, 資材の管理などの確認

上記のことに関する連絡や折衝



中川地区自主防災会組織図と連絡網概略



■浅海地区においては、南北に1名ずつの防災責任者を置く（自治会会長以外で1名）

■江良片山・川北に連絡員を置く

■避難所開設について ※印＝町， 中川南避難所＝町および自治会長，
平野鐵工所＝自治会より依頼 以外の一時避難所は該当地区の町内会長に依頼

6. 防災体制タイムライン

主な災害等の状況	矢掛町災害対策本部→自治会へ	町内会や地域住民の動き
<ul style="list-style-type: none"> 大雨洪水注意報が発表され災害発生のおそれがあるとき 水防団待機水位に達し、さらに上昇がみとめられるとき 	<p>準備体制</p> <p>各自治会長との連絡 避難場所との連絡</p>	<p>(警戒レベル2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 大雨注意報・洪水注意報（気象庁発表） <p>避難に備え、避難に対するタイミングの再認識と対策本部との情報の共有へ</p>
<ul style="list-style-type: none"> 暴風、大雨、洪水のうちひとつでも警報と発表されたとき 小田川の水位が氾濫注意水位に達したとき 	<p>初動配備・警戒体制</p> <p>各自治会長との連絡 避難場所への連絡 到着</p>	<p>(警戒レベル3)</p> <p>高齢者等、避難に時間を要する人（要配慮者）やこれを支援する人は、指定避難所一時避難所に避難の開始</p>
<ul style="list-style-type: none"> 消防団出動が発表されたとき 高齢者等避難が発令されたとき（警戒レベル3） 小田川の水位が避難氾濫判断水位に到達もしくは到達見込みのとき 地震 震度4～の発生の時 	<p>特別警戒体制</p> <p>各自治会長との連絡 避難場所へ到着・開放</p>	<p>(警戒レベル4)</p> <p>避難指示</p> <p>速やかに避難行動をとる。災害の発生が高く、避難が難しいと判断をした場合は近隣の安全な場所や建物内のより安全な場所に移動</p>
<ul style="list-style-type: none"> 避難指示が発令されたとき 	<p>非常体制</p> <p>各自治会長との連絡 避難場所へ到着・開放 副会長等の応援を依頼</p> 	<p>(警戒レベル5)</p> <p>緊急安全確保</p> <p>すでに災害が発生しています 直ちに身の安全の確保を</p>

7. 防災訓練の実施と検証

避難時の訓練の例	避難後の訓練の例	応急訓練の例
避難訓練	避難所の開設	消火訓練
避難路の確認 避難所などの運営訓練	避難所運営 燃料，食料，給水 情報の収集と共有・伝達	救急・応急措置の訓練 (AEDなど心肺蘇生法)
避難経路の危険個所の把握 (防災さんぽなどの実施)		防災機材等の取扱い訓練
要配慮者の把握		

- ・ 毎年 防災訓練などを行うことが重要
- ・ 防災訓練の結果についての課題を把握し，活動を改善することが重要

(例：防災避難訓練の課題から，川北に一時避難所として(株)平野鐵工所との協定)



防災避難訓練（防災さんぽ）

H30西日本豪雨冠水➡



中川地区における防災講習会，防災訓練など

学習会・講演会

令和2年度	お天気と防災（気象予報士 住宅 正人さん）	公民館
令和3年度	防災トークとミニコンサート（防災士 りりーさん）	公民館
令和4年度	東北大震災と津軽三味線（福島原発避難者 蝦名宇摩さん）	公民館
令和4年度	アナウンサーがみた災害（NHKアナウンサー 塩田慎二さん）	公民館
	西日本豪雨を体験して（当時 小・中学生だった3人による作文発表）	
令和5年度	地区防災計画作成モデル創出事業	自治会 自主防災会 消防団 防災士 地区社協 福寿会

他に，地区住民による小学校での防災学習

いきいきサロン 防災出前講座

防災訓練

平成28年度	地震がきたらどーする	公民館（めだかの学校） 中川保育園
平成29年度	防災キャンプ（1泊2日）	教育委員会（中川小） 自治会 公民館
令和元年度	防災避難訓練	小学校 公民館 消防団 地区社協
令和2年度	防災訓練	TEGO隊（公民館） 自治会 地区社協 消防団
令和4年度	防災フェスタ	公民館（めだかの楽校，児童ゆうゆうクラブ）
令和4年度	中川南避難所へ避難訓練	高柳町内会
令和4年度	防災訓練（防災さんぽ）	小学校 公民館 自治会 地区社協 消防団 福寿会 防災士
令和5年度	防災フェスタ	公民館（めだかの楽校，児童ゆうゆうクラブ）

※TEGO隊・・・公民館の中高生ボランティア団体

※めだかの楽校・・・児童の遊びや学習などの居場所（公民館）



防災避難訓練

備えておきたいもの、持って逃げるもの

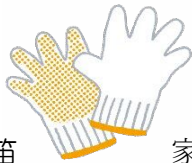
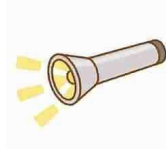
枕元に準備しておくもの

携帯電話



災害などの様々な情報収集に

懐中電灯などの照明器具



手袋（軍手）スリッパ

避難の際にいろんな怪我から身を守る

笛

家屋などの下敷きや、閉じ込められた場合に助けを求める

非常袋

すぐに持ち出せるように枕元近くに



【例】

	持ち出す物品類	チェック点検日		
貴重品	現金（5万円程度） 小銭とお札に			
証書類	預金通帳，印鑑，各種保険書類，免許証			
非常食品	缶詰 乾パン，飲料水 赤ちゃんがいる家は粉ミルク 離乳食			
救急用品	ばんそうこう，ガーゼ，常備薬			
衣類	季節にあった衣類，下着 レインコート 軍手			
生活用品	洗面具用品，生理用品，ティシュペーパー，トイレットペーパー			
その他	ビニール袋，携帯ラジオ，携帯電話の充電器，マッチ			

在宅避難の場合に備えて（枕元に用意するものにプラス）

飲料水・食料

卓上コンロ・ラップ・ポリ袋

簡易トイレ・トイレットペーパー

水タンク

衛生用品



防災訓練

8. みんなで決める 住民主体の防災

防災を通じての地域づくり 逃げ遅れゼロを目指そう

地区防災計画は、自分たちでつくるものであって、行政等がつくるのものではない。

地区防災計画は、計画を作りあげるのが最終目標ではない。

地区防災計画は、自分たちで計画をつくることで地域の防災力を高めること。

地区防災計画は、計画に基づいて訓練をし、みつかった課題を新たに改善していくこと。

行動（訓練など）を繰り返すことが大事。

平常時は身近な行事で地区防災計画を楽しんで行うことも大事

【例】

運動会で防災訓練・・・担架リレー、バケツリレー、土嚢づくり

もちつき大会やBBQで防災訓練・・・炊き出し

とんど祭りで消火訓練

子ども会（小学校）と合同防災訓練・・・防災さんぽ（マップづくり）

老人会と防災訓練・・・命のバトンと防災さんぽ

いきいきサロンとの防災・・・出前講座、集会所での避難訓練



命をつなぐ行動のために！避難所運営訓練

地区防災計画作成モデル創出ワークショップ

第1回 令和5年12月3日 中川小学校 体育館

第2回 令和6年1月21日 (株)平野鐵工所 厚生棟

第3回 令和6年3月10日 中川小学校 体育館

参加人数一覧

	事前申込者	参加者数
町内会	49	49
福寿会	6	6
消防団	6	6
地区社協	6	6
防災士	3	3
小学校	1	1
公民館		1
矢掛高校		3
合計	71	75



中川地区防災計画

策定：中川地区自治協議会

指導：香川大学

特命准教授 磯打 千雅子

事務局：矢掛町本堀1718-2

中川町民会館内

☎&📠 0866-83-1299

令和6年3月作成